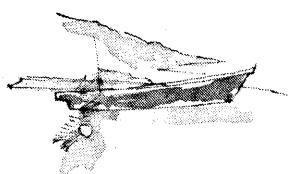


現場の問題一問一答

ご飯をこぼしても何もしない子

——幼児保育現職研究会の記録より——(1)



A (保育園で五歳児を受持つていて)・ご飯をこぼした時は、ちり紙で拾い、ふいておくことになつてているのだが、ご飯をこぼしても、私の顔をちらりちらりと見るだけで、何もしない子がいる。しかたがないので「どうするんだつたかしら」などと、注意することになつてしまふのだが……。

B・幼稚園では何をするのか、という問題にかかわってくると思う。それができるようになつたとして、どれだけ大人になってから役に立つのだろうかと考えてしまう。それよりも先生がふいてくれたという経験の方が、子どもの心に何か残るのではないだろうか。

C・してしまったことのよしあしより、どう処理すればよいのか、ということを問題にしていかなければいけないと思う。

ここに記してあるのは、現場の人たちの集まる現職研究の話し合いの一部分をぬいたものである。現場の具体的な問題には、こうせねばならないという結論があるわけではない。互いに話すことによって、問題を深めていくことができる。ことばの間には、考える時間や間があるのだが、文字になると、それが抜けてしまう。それを補いながら、読んで考えいただきたい。

津守 真

A・初めのうちは教えた。しかし、今となつては教えることではないように思う。どうしなければならないかは子どもが知っているのだから。

B・うつかりすると、自分がこぼしたのでなければふかなくともいいんだ、というようなことになってしまわないか。

C・自分がしてしまったことは、自分でと始末すると
いうのは、自立の第一歩だと思う。

B・もちろん、教え、やらせていかなければならぬないと
は思う。しかし、どの時期にするかは別問題だと思う。

C・子どもと先生がいつしょにするのはどうだろうか。
B・ふくことにお互いが大変な意識を持つてしまつてい

るのではないだろうか。両方で陰険になつてしまふと、ま
すますこじれてしまう。楽しくできたらと思う。

C・言葉のしゃべれないある精薄の子が、こぼしてしまつた時、心配そうて私を見上げたので「あそこ離きんが

あるから、ふこう」といつたら、理解したらしくニコッと
してやった。

D・いつ教えるかということだが、幼稚園前ではないかと思う。小学生でもできない子がいる。

B・幼稚園ではできていても、それが小学校へ続かないこともある。

D・学校では善人を育ててきている。だが、だんだん大

きくなるにつれて、大人もしていないというような場面を見ることになる。そのうち、ごまかすことを覚えてくるようだ。

B・本当の教育をしていればそんなことはないのではないか。

D・廊下にごみが落ちていたら私は拾う。でも、自分が先生だから拾っているのではないかと思うことがある。子

どもたちはいわれなければ捨わない。
C・先生は必要な偽善者?!

E・こうすることはいいこととわかつてゐるが、そうすることが偽善ぶつてゐるようで、恥ずかしさを感じる時期

F・ごみを捨とうとのよな場合、その本当の目的・意
があるようだ。

味がちゃんとわかつてしてきたならば、自然にできると思
う。しかし、拾うと先生がほめてくれるからということ

してきた場合には、大きくなるにつれて、そうすることが
偽善的な行為のように思えてくるのだと思う。した方がいい

いことはわかっている。でも、回りの人々が自然な形で受け取つてくれないのでないか、という不安をついもつて

しまう。

G・初めの話に戻るが、その子は人一倍こぼしてしまつたことを気にしているのではないか。そうだとしたら、その気持ちを救つてやるような働きかけが必要だろう。

B・失敗が罪になってしまつてゐるのではないか。

E・罪意識をもたせるような扱い方を、母親たちがしているように思う。家庭に原因があるのではないか。保育園の子は、母親が働いている。母親たちは、保育者のようにゆとりある心で、子どもたちに接することができないのではないか。

B・もし、そのような環境にいるのなら、もっと解きほぐしてやることが必要だと思う。それが教育的なことになるのではないか。ふけなくともいいと思う。もつと基のところを素直になつてくれる子に育てたい。

C・これこれは家庭ですること、といつても、家庭でできないなら、園でやらなければならない。

(記録者、鈴木みさ子)

おかたづけの歌

——幼児保育現職研究会の記録より——(2)

A・私の保育園では、朝の歌、お帰りの歌、食事の歌と

いうようにいろいろな歌があるんです。子どもが一、二歳のころはその歌を歌つてやると喜んでいたのですが、このころはいやがるようになったんです。自分もやつていて疑問に思ふんですが……。

ある時、食事の歌をやめてみました。

子ども(四歳)「歌、歌わなくていいの?」

先生「歌つてから食べる?」

子ども「ううん、いい、いい、たべる!」

こういうことはありませんか?

B・どういう理由で歌うんですか?

C・「さあ、これからみんなでお食事をするのよ」という感じですね。だけど、歌そのものがおもしろいのかな?

A・子どもたちがいっせいにきちんとするのでは?

B・音楽を合図として使つているのではないですか。

D・キリスト教系の幼稚園ですけど、食事の前に感謝の意味で歌います。でも、忙しい時など「きょうは歌わないで食べましょね」と言うと「ワアッ!」と喜びますね。

E・いつも歌わないのがおもしろいのではなく、ルールに反するのが楽しいということも考え方れます。音楽を合団として使うことに疑問なのですか、それとも、お預けを

させることに疑問なのですか？

B・合図として使う方です。私の所でも、すわる音楽、立つ音楽、片付けの音楽などみんな決っているんです。お母さんに見せる時にスッキリするからかしら？

やめたりすると。子どもが「レコードならないわね」。

「かけた方がいい？」「いい（知らない）、この遊びもっとしたいの」

B・ピアノひとつで動いちゃうのはイヤですね。

F・文部省の「合図の音楽を楽しんで聞く」というのがあります。これは音楽を聞く態度を作ることではないんですね。便利のために何かするという時には、子どものために迷惑でないかどうかをよく考えなければなりませんね。

音楽を使うにも方法をいろいろ工夫してみてはどうでしょう。きょうは、こぼさないようにとか、ひとつの同じ歌を私たちがどうおさえるかを考えて……。それと同時に、感謝することは大事だと思いますが、

コールサイン、便利である、静かになつたからいい、で

はなく、音楽入門として使うならまた大切に考えなくては絵、文字などは内面的になりますが、その点音楽は広がりをもっていますし。

E・音楽は音楽として考えなくてはいけませんか？ 合図に楽しいものとして音楽を使うのはダメですか？

B・乳児期には音楽を手段として使っているのはいいですね。この時期は言葉がないから。それを四、五歳まで押しつけるところに問題があるので？

G・音楽を使うはある程度まではいいと思うんです。リトミックにすぐ反応する子がいますね。それはそれで意味を持つと思いますが、いくら音感がよくなつても、人間と人間とでふれ合っていることを抜きにしてはよくないと思いますね。言葉というのは人と人とのつながりを作ります。スキップでも「小さな音楽になつたらすわりましょうね」といつてあげたいですね。

H・食事の歌、お帰りの歌などは、みんなで準備できたんだなあ、とその場の状況を判断する力を養うのではないでしようか。音楽に機械的に反応するのではなくて、言葉のつながりの中で、その場の状況を断判するというような……。

I・合図として固定すると変な方にもいくんですね。たとえば「赤とんぼ」——ごみ屋の歌、「軍艦マーチ」——パチンコ屋など。

J・小学校でもあります。手を洗う歌、そうじの歌など。

初めは、この学校、なんてさわがしいんだろうと思いまし

たね。鳴っている時は思考中断状態ですからね。

D・お片付け、降園の時に音楽をやりますね。それも毎日きまっているのではなく、いろんな曲を使います。それでなんとなく「片付けるんだなあ」という感じになります。

A・私のところは、お片付けの曲は「トルコ行進曲」にきまっています。違う曲をかけたら、全然片付けません。

I・きまつた曲でいいこともありますね。とつても乱暴で、手のつけられない子がいるんですが、その子は「赤いくつ」の歌が大好きなんです。どんなに暴れていても、その曲をかけたり口ずさんであげたりするとすぐに静に静かになってしまいます。その人の心をうつものでありますきまつたものでもいいんですね。

E・子どもをひとりひとりみてないで、まとめて動かそうと思うところが問題なのではないでしょうか、人ととのふれ合いを忘れて。

(記録者 工藤啓子)

現場の問題 質問募集

現場で日々ぶつかる疑問を募集します。

次の要領で投稿してください。それに対する意見や話し合いを掲載します。

一、問題はできるだけ具体的に記すこと。意見を記してください

二、質問者の氏名、住所を必ず記し、その他、自己紹介をしてください。

三、送り先
東京都文京区大塚二一一一 〒112
お茶の水女子大学附属幼稚園内
日本幼稚園協会 「幼児の教育」編集部宛

●質問の文章を多少変えることがありますのでご了承ください。